

# 平成 28 年度 教員免許状更新講習 シラバス

講習 番号	3	講習名	国語科教育に活かす古典文学研究の成果（1）				
担当講師	開催地	時間数	主な受講対象者	受講人数	講習形式	試験方法	
柳川 順子	広島 キャンパス	6 時間	中学校・ 高等学校国語科教諭	30 人 (最少開催 人数 3人)	講義	筆記	
開催日	7 月 30 日（土）		予備日	8 月 6 日（土）			
【到達目標】							
中国古典について、その根幹を体系的に把握した上で、日本文学との関係性を理解している。							
【講習の概要】							
伝統的な言語文化の理解に重点を置く新学習指導要領の特色を踏まえ、「日本における古典知の形成と展開」について考える。最新の研究成果を紹介しながら、『史記』『蒙求』『白氏文集』『唐詩選』などから、日本の古典知に組み入れられ、現代の「国語」のテキストにも多く採用されているいくつかの作品を味読する。あわせて、中国古典の全体像を概観し、それとの対比を通して、日本文学の独自性についても考察を試みる。							
【講習の内容】							
<b>講義 1：平安時代における中国古典の摂取</b>							
日本文学に摂取された中国古典の筆頭格『白氏文集』は、その渡来当初、「もんじゅう」ではなく「ぶんしゅう」と読まれていた。この事例から窺える、日本の外来文化受容の特徴をまず概観する。継いで、「勸学院の雀は、『蒙求』を囀る」という諺から、平安朝当時における中国古典摂取のあり方を推し測り、更に、『和漢朗詠集』の部立て「三月尽」を例に、白居易詩によって目覚めさせられた、日本の新しい美意識に注目する。							
<b>講義 2：白居易の友情の詩と科举制度</b>							
中国の詩人たちが多く詠ずるテーマのひとつが友情である。その代表的作品として、白居易の「八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九」、及びこれに応酬した元稹の詩を精読し、二人の置かれた状況や心理状態を分析する。加えて、彼らが生きた唐代の官僚社会、及び彼らの思想や文学活動に大きな影響を及ぼした科举制度について概観する。その上で、唐代の詩人たちが盛んに友情を詠ずる理由、ひいては日本文学と中国古典文学との質的差異を考察する。							
<b>講義 3：杜甫の詩と人生</b>							
詩聖と仰ぎ見られる杜甫ではあるが、実はその生前は挫折の連続であった。彼は、唐代の知識人なら誰もが夢見た社会的活躍を、強く望みながらも実現できなかった人物である。それだけに、その詩には中国的知性の本質が純粹なかたちで表れているとも言える。同時代においてはほとんど無名で、後に『唐詩選』等の選集に多く採録されて、日本の人々にも広く愛好されることとなった彼の詩を、その波乱に満ちた生涯とあわせて味読する。							
<b>講義 4：演劇としての「刺客列伝」</b>							
司馬遷の『史記』は、語り物や演劇のような文芸を少なからず取り込んで成っている。歴史書ではありながら、躍動感あふれる物語として本書が受容される所以であろう。そうした色彩の濃い部分から「刺客列伝（荊軻）」を取り上げて、その文体や構成の中に演劇的要素を拾い上げながら味読する。こうした視点からの読みは、漢文教材としての『史記』に、新たな授業展開の可能性を示唆するものとなるかもしれない。							
【備考】							
試験の際には、講義で配付した資料、ノート、電子辞書を含む辞書の持ち込みを認めます。							